

平成 29 年度 秩父地域森林活用等創出支援事業 活動状況報告書

秩父千鹿谷郷 ひなた村 特産品開発 (H27、H28)

秩父千鹿谷郷 ひなた村

事業の目的・内容

限界集落に暮らす人々のグループ「千鹿谷郷 ひなた村」の持っている知恵・技術などを活かし、“いなか”の奥深い文化の香りのある食材「山椒」を利用した特産品を開発、ブランド化することにより地域の活性化を図る。山椒の木の育成から若い芽の生産および地元PRを行う。

今までの活動状況

<平成 28 年 12 月から平成 29 年 9 月 30 日までの活動状況>

昨年 (H27) に植えた苗の育成・管理、交流活動等を実施。

※育成状況、アゲハ蝶食害の確認、点検等は、畑出向時に実施。

1、苗の育成

①雪害の防蝶ネットの整理、鹿柵ネットへの活用 ネット張り：平成 29 年 6 月 18 日



ネット点検補修：H28/12/17、H29/1/27、1/27、2/10、3/4

②防蝶ネット支柱の単管パイプによる補強 平成 29 年 1 月 20 日



③刈り払い H29/5/12、6/3、6/9、6/10、6/18、8/5、8/11

2、交流活動

- ① 平成 28 年 12 月 10 日：山村と都市の交流エコツアーの中で、山椒畑の見学、柚子果汁作りの体験を通し当会の PR を行った。(参加者 29 名)



- ② 平成 29 年 3 月 25 日：昨年同様、ひなた村主催の「すいせん祭り」を開催。(参加者 25 名)

3、試作会

- 平成 29 年 4 月 15 日：山椒の若芽佃煮. 1.3kg 50g パック 27 個作成 (参加者 7 名)



- ◎ 上記活動の結果、山椒の生育はバラつきがあるものの当初の期待に近い数で生育しており、心配していたアゲハ蝶の幼虫による食害はほとんど無かった。活着率は当初植栽の 73%。実生苗の 11 月植え付けの苗の活着率が高い。初エコ交流はツアー、果汁搾り体験、すいせん祭り等は、参加者から次回も期待する声が聞かれた。山椒の佃煮は、量が少なかったが、目指す特産品、作成方法の理解が得られた。これまでの経験から当事業はさらなる拡大継続をしていきたい。
- ◎ 平成 28 年 12 月～平成 29 年 9 月の活動延日数 33 日、活動延時間 401 時間、活動延人数 106 人。活動 1 日当たり 3.2 人(1～29 人)、活動 1 回当たり 3.8 時間(1～5 時間)。



これからの活動・行事

- 山椒植え付け面積の拡大を検討する。拡大に伴う山椒苗、生産畑について「NPO 法人 秩父百年の森」と連携し、生産・確保を検討する。実生苗用の実は平成 29 年 10 月までに収穫し、平成 30 年以降に播種・育成する。
- アゲハ幼虫対策は、被害が無かったことから、1 m 以上に成長した苗についてはネット掛けを省略、食害の有無を観察する。有の場合はネット掛けをする。(平成 30 年度実施)
- ツアー、すいせん祭り(3 月)、試作会(4 月)は、昨年と同様に実施する。